

手術室のコロナ対策

看護師編

9東病棟 看護師長 宇野珠里

手術室では、患者が安心安全に手術を受けられるよう、チーム全体で質の高い手術を提供することを目標に日々取り組んでいる。2020年からの新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、手術室利用件数も2019年度5,159件から2020年度4,199件に減少した。そのため、手術室では、感染予防の視点で安全に手術を行うことや手術利用件数を回復できるように目標を挙げ、術前のPCR検査で陰性を確認の上、手術を行う等の体制を築いた。それらの体制が定着した中、2021年5月には、手術療法を必要とする新型コロナウイルス陽性患者の手術を行うことになる。どのような感染対策を行い、安全に手術を行うのか、手術室の環境として陰圧設定が行える手術室(3室)を使用し、①入室前(前日)準備②当日準備～入室③当日術後～退室の段階に分けて、多職種間でそれぞれの役割や必要物品、連絡体制、職業感染予防など事前打ち合わせを行い手術を実施した。なかでも、飛沫感染のリスクがある挿管・抜管時の対応やPPE着脱の手順、他の手術患者と交差しない入退室の時間設定、環境を考慮し必要最低限の物品を手術室内に入れること、清掃方法などは入念に打ち合わせをした。また、術後にも多職種間で手術の振り返りを行い、結果を踏まえてマニュアルやチェックリストを作成した。その後、経験を積み血管造影室(陰圧設定)やハイブリット室(手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室)を必要とする手術をどのように行うのか、空調の調整等も検討し、マニュアルに追加した。

これらの多職種協働の取り組みを経て、新型コロナウイルス陽性患者の手術にも安全に対応できるようになった。

手術室前の防護具や物品準備



手術室内は必要最低限の物品準備



手術室前の手指衛生剤・PPE準備



手術台や周辺の準備

